

| | | | | | | | |
|---|---|-----------------|------------------|----------------|--------------------|------|-------|
| 授業科目名 <英訳> | ILASセミナー：日本古代・中世政治文化論I ILAS Seminar: Politics and Culture in Ancient and Medieval Japan I | | | 担当者所属 職名・氏名 | 人間・環境学研究科 准教授 吉江 崇 | | |
| 群 | 少人数群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール |
| 開講年度・ 開講期 | 2018・前期 | 受講定員 (1回生定員) | 10(8)人 | 配当学年 | 主として1回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 曜時限 | 金5 | 教室 | 吉田南総合館南棟4階475演習室 | | | 使用言語 | 日本語 |
| キーワード | 日本史 / 古代史 / 中世史 / 政治史 / 文化史 | | | | | | |
| (総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。) | | | | | | | |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | |
| 音楽史という視点から、日本古代・中世における天皇や宮廷社会の姿について考える。 | | | | | | | |
| 1冊の研究書を読みながら、日本の歴史と文化に対する歴史的思考力を高めることを目指す。対象とする書物は大学生・一般人が読める内容のものとし、ただ読むのではなく、記述の背景や根拠を丹念に調べる。とくに根拠とされる歴史資料を解釈しながら、書物を読み解き、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨く。 | | | | | | | |
| 今回は豊永聡美著『天皇の音楽史』を取り上げ、その内容を検証する。 | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | |
| 古代・中世の日本の歴史に関して正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、提示された学説を吟味して、自分の見解を対置する能力や、歴史像を組み立てるための技術を身につける。 | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | |
| 日本古代・中世の天皇にとって音楽とは、自らの権威を構成する重要な要素であり、幼少の頃から習得が重んじられる帝王学の要であった。平安時代に入り、宮廷社会が成熟すると、宮廷社会の中心にいた天皇も、自らが奏者となって楽器を演奏するようになる。天皇の演奏する楽器、すなわち天皇が習得する「帝器」は、時代に応じて変化していくこととなり、平安時代から鎌倉時代、室町時代へかけて、琴から笛、琵琶、笙、笙・箏へという変遷を読み取ることが可能である。こうした「帝器」の変化は、天皇や皇統の変化と連動するものであるが、15世紀前半に伏見宮家から天皇に即いた後花園天皇をもって、笙・箏が「帝器」として固定する。 豊永聡美著『天皇の音楽史』を輪読しながら、こうした様相の把握に取り組む。あわせて、根拠とされる資料を分析し、内容の可否を検討する。 | | | | | | | |
| 第1回 イントロダクション | | | | | | | |
| 第2回 古墳時代から奈良時代 | | | | | | | |
| 第3回 平安時代 琴の時代 | | | | | | | |
| 第4回 平安時代 笛の時代(1) | | | | | | | |
| 第5回 平安時代 笛の時代(2) | | | | | | | |
| 第6回 鎌倉時代 琵琶の時代 | | | | | | | |
| 第7回 鎌倉時代 両統迭立期の帝器(1) | | | | | | | |
| 第8回 鎌倉時代 両統迭立期の帝器(2) | | | | | | | |
| 第9回 鎌倉時代 両統迭立期の帝器(3) | | | | | | | |
| 第10回 室町時代 皇統分立と帝器 | | | | | | | |
| 第11回 室町時代 笙の時代 | | | | | | | |
| ILASセミナー：日本古代・中世政治文化論(2)へ続く | | | | | | | |

ILASセミナー：日本古代・中世政治文化論(2)

- 第12回 室町時代 笙と箏の時代(1)
第13回 室町時代 笙と箏の時代(2)
第14回 まとめ
第15回 学習到達度の評価
上記の各回の内容は著書の目次による。
フィードバックの方法は別途連絡する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

期末試験(レポート・50点)と平常点(授業内での報告・50点)の合計で成績評価する。

【教科書】

豊永聡美『天皇の音楽史 古代・中世の帝王学』(吉川弘文館) ISBN:978-4-642-05842-1 (2017年刊行、1700円+税)

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

授業の進行はシラバスに記載の通りであり、全体の進行をあらかじめ通知するので、各週の輪読箇所を読み、また授業内容を想定し、輪読箇所の予習をすることが望ましい。

【その他(オフィスアワー等)】

授業はゼミ形式で発表の義務があり、日本史の基礎知識があることが望ましい。